

超音波画像診断装置仕様書

I 構成内訳

1	超音波診断装置	1 式
2	CW キット	1 個
3	Reference Signal キット	1 個
4	ECG 電極リード線	1 個
5	ファストクリップ (はさみ電極)	1 個
6	SMI キット	1 個
7	Shear Wave キット	1 個
8	Auto EF Measurement キット	1 個
9	ゼリーウォーマ	1 個
10	周辺機器搭載キット	1 個
11	コンベックスプローブ	1 個
12	セクタプローブ	1 個
13	デジタル白黒プリンタ	1 台
14	DICOM サーバー (中島メディカル)	1 式

II 主な仕様

- 1 操作者の身体の負荷を軽減するため、2つのアームを組み合わせたフレキシブルな操作性を実現していること。
- 2 長時間の検査でも操作者の負担を軽減するためパネル位置を可動できること。
- 3 23インチの大型ワイドモニタを搭載していること。
- 4 タッチコマンドスクリーンの角度が約15度の範囲で調整可能であること。
- 5 ゼリーウォーマは、患者さんの負担を軽減するため、二段階の温度調節が可能であること。
- 6 トラックボールは手首を動かさず、指のみでコントロールできること。
- 7 全長812mmのコンパクト設計であること。
- 8 12.1インチのタッチコマンドスクリーンはスワイプができること。
- 9 体表からの深さ方向及び画像横方向のゲイン調整をタッチパネルでできること。また、任意の設定をプリセットできること。
- 10 タッチパネルで患者情報やアノテーションの入力ができること。
- 11 立ち上げ時間は60秒以内、スタンバイからは30秒以内であること。
- 12 起動後の全てのフレームを解析し、常に明るさが均一になるように最適化すること。

- 13 ステアリング、サンプルボリューム位置、角度補正の最適化を行う機能を搭載していること。
- 14 ベースラインや流速レンジなどの設定を自動で最適化すること。
- 15 頸動脈 IMT 計測方法の 1 つである IMTC-10 計測に対応していること。
- 16 遠位壁における 10mm 長の領域で 100 点以上の計測を行う自動トレース法に対応していること。
- 17 プローブの各素子に対してそれぞれ同時に異なる波形を重ね合わせて駆動できること。
- 18 パルサーから発生する波形が理想的な帯域分布となっていること。
- 19 多くの受信信号を同時に処理し、高フレームレートで画像を取得できること。
- 20 深部まで高い分解能の画像が得られる機能を有していること。
- 21 高いコントラスト分解能と均一性を向上させる機能を有していること。
- 22 近接する複数の超音波ライン信号を高速処理し、組織の視認性を高める機能を有していること。
- 23 左心室の 2D モード動画像を用いて、ワンタッチ操作による自動的な EF 計測が可能であり、同時に心筋ストレインの指標である GLS を算出表示できること。
- 24 低流速血流のモーションアーチファクトを除去して表示する SMI モードを備え、流速スケールが 3cm/sec 以下でもフレームレート 50f/s 以上で表示できること。
- 25 高音圧バースト波の送信によって組織を局所的に変位させることで、組織の変位が伝播する速度情報（せん断伝播速度）を映像化できる機能を備え、伝播状態を等高線表示できること。
- 26 安全で安心な保守管理体制を整備していること。

社会医療法人社団
大久保病院